

★いわき市視察報告（2015年7月19日）

「RAINBOW～虹の架け橋～」は大阪の防災意識を向上させる活動に合わせて、「みちのくの会」（福島県より堺市に避難されている方々）を支援する活動を行っていますが、実際に福島の実情を知らずして支援はできないという大畑舞花代表の思いに、いずみ市民生協が賛同していただき、実現しました。また、かねてから交流いただいている福島県立好間高等学校の「ウイラニオーラパ」のみなさんと本馬校長先生に案内いただき、いわき市内を視察させていただきました。



（好間高校にてウイラニオーラパのみなさんと）

好間高校にて

好間高校にてウイラニオーラパのみなさんにフラダンスを披露していただきました。みなさんは震災以降、みんなをフラで笑顔にしようという思いから全国各地で活動されています。校舎も地震の傷跡もなく、キレイな状態で一見、復興しているように見えたのですが、玄関の前には線量計が設置されていたり、運動場を除染した際に出た汚染土やヘドロは黒い袋にいれ、ビニールシートをかけられた状態で校内に放置されたままになっていたり、まだまだ本当の復興にはいたっていないことが分かりました。



（玄関前の線量計）

とよマルシェ（ふるさと豊間復興協議会）にて

津波で甚大な被害を受けた豊間地区の復興商店街「とよマルシェ」（2015年1月オープン）を訪問し併設された豊間生活再建サポートセンターにおいて、ふるさと豊間復興協議会事務局の橋本和彦さんに震災当時の様子をスライドを使ってご説明いただきました。中にはフォトグラファーの志賀新さんがとられた震災当時の貴重な写真もたくさんあり、津波被害の悲惨さを感じることができました。

実際に見てわかったこと（豊間地区の復興の様子）

震災前は海沿いに多くの住宅が建てられていたため、津波により多くの人が被害にあわれた。そのため、平地を嵩上げし、住宅を高台に作るよう計画している。コンクリートのみの5.5mだった防波堤も鉄筋入りで7.2mになるよう新設していた。また、津波被害の大きかった海辺の場所を桜の木やどんぐりを植え緑化し、防災緑地を作る「どんぐりプロジェクト」を実施している。さらに、復興住宅が建設されており、復興の拠点として多くの人が避難先から戻ってこられるようにしていた。



（高台の建設の様子）



（防災緑地計画と防波堤建設）



（復興集合住宅）

メンバーの感想

- 今はだいぶ復興に向かっていて、この場所がかつて津波の被害にあったとは思いませんでした。今、福島のために私たちができることは少ないけど、離れた大阪でもできることを考えたいと思います。次に訪れる時には防災緑地に桜を植える計画などに協力できればと思います。
- 初めて自分の足で福島の地に立ち、たくさんを感じることができた。今後はこれら私たちが感じたことを多くの人に知ってもらうなど、私たちにできることを考えていきたいです。
- ウイラニオーラパのみなさんのようにみんなを笑顔にできる活動をしていきたいです。